

6 研究協議の主な内容

(1) グループ協議の内容

【討議の柱1 知識を相互に関連付けてより深い理解に向かうことができていたか】

- ・ジグソー法による学習の取組は効果があった。生徒が生物の進化についての根拠をどのような視点で検討するかを決めて、同じ視点をもった生徒同士でエキスパートチームを編成し、そのチーム内での学びをアウトプットすることで、知識の定着が図られた。また、他者に知識を伝えることで、思考を整理することにもつながっていた。
- ・自分が知っている事柄と関連付けることにより、より深い理解につなげている生徒がいた。
- 一方で、子どもが自由に調べたことで、内容が難しくなり、理解につながらなかった生徒もいた。

【討議の柱2 単元デザインは、生徒の「主体的・対話的で深い学びの実現」に結び付いていたか】

- ・「証拠を証明する」というゴールが見えているのがよかった。
- ・「深い学び」というよりも「広い学び」という印象を受けた。

(2) 指導主事の助言

（旭川市教育委員会 教育指導課 主査 栄 耕平）

① 「課題設定、見通し」について

- ・本時は、生徒自身の興味・関心に基づき、課題を自己選択させることや、自ら学習を調整することなどにより、学習の個性化につながっていた。また、必要感のある交流をすることで、学習が深まる工夫がなされていた。
- ・単元を通した課題が設定されていることが望ましい。その際、教科の特質や単元構成、生徒の実態に応じて設定することが重要である。
- ・単元の1時間目に単元の問いから課題を設定し、生徒がいつでも課題に立ち返ることができるようにするとともに、板書やクラウド、掲示物等で解決方法を共有することが重要である。

② 「自己決定、自己選択」について

- ・児童生徒が自己決定・自己選択を繰り返すことにより、主体的に学ぶことにつながる。本時においては、生徒の疑問を基に探究する内容を選択する工夫がなされていた。
- ・児童生徒に何を決定させるかが大切であり、全て委ねるのではなく、教師が意図をもって何を委ねるかを決め、学習の方向性が大きくずれないように、授業を進めていくことが求められる。
- ・生徒の提案、考えを取り上げることができるかどうか、生徒に委ねることができるかどうかを教師が判断する場面においては、生徒の思考の流れを把握するとともに、単元を見通した上でどの部分を生徒に委ねることがより効果的であるかなど、事前の教材研究が大切である。
- ・自己選択がうまくいかなかった場合を考慮する必要がある、児童生徒が失敗から学ぶことができるよう、教師が働き掛けることも重要である。

③ 「単元レベルでの振り返り」について

- ・単元を通して振り返りを行うことにより、自分事として課題を捉え、学びへの意識が高まる。
- ・振り返りシートをクラウドを活用して蓄積し、生徒がいつでも振り返りを見返すことができるよう工夫がなされていた。振り返りシートの内容として、「今日の学びとこれまでの学びとのつながり」「今日の学びと他者の考えとのつながり」という視点で振り返ることにより、生徒は既習事項の系統性や関連性を大切にすること、他者と学ぶことの良さに気付くことができる構成となっていた。

〈上川教育局 教育支援課 義務教育指導班 主任指導主事 蒔田 和樹〉

- 教師の意図が見られた授業だった。その意図が効果的に働いていたかどうかを協議することが重要。
- 今求められる授業を構築する際、「タイムマネジメント」は教師がするものではなく、必要な時間を子どもに委ねることを目指したい。

① 「発問」について

- ・適切な働き掛けができていた。「理科の見方・考え方」を大事にした授業づくりが見える授業であった。
- ・指導者が教科で働かせる「見方・考え方」を明確に理解すること、単元や本時で目指す子どもの姿を具体的にイメージして、児童生徒に関わっていくことが重要である。
- ・机間指導では、児童生徒の状況を細かく把握し、想定している状況と比べて不足している部分については支援をする必要がある。本時においては、教師に具体的なイメージがあったからこそ、必要に応じた働き掛けができていたと考えられる。
- ・「思考力、判断力、表現力等」については、自分の説明に必要な情報は何か取捨選択をし、表現することが重要である。
- ・本時では、エキスパート活動で持ち寄った雑多な情報から、必要な情報を判断し、自分の言葉として表現することを意図していたことが見えた。表現はさせているが、思考・判断させていない授業ではなく、真に「思考し、判断し、表現する」ことが重要である。

② 「必要感のある学び合い」について

- ・今回のジグソー法も有効ではあるが、別な方法も考えられる。重要なのは、生徒が必要に応じて、必要な活動ができることである。
- ・本時は、生徒の活動を教師がコントロールしていたが、自分の考えをまとめるという「本時のゴール」を提示して、その後の活動は生徒に委ねるといった方法も考えられる。
- ・教師が時間をコントロールしてしまったがゆえに、授業が最後まで進まなかったとも考えられることから、より柔軟に授業の展開を考えることも重要である。

③ 「本時レベルでの振り返り」について

- ・本実践のように、視点を示して記入させることは重要である。
- ・振り返りにも様々な方法があると考えられる。それぞれの方法の成果と課題を明確にしておくことが重要である。
- ・振り返りに何を書いてよいか分からない生徒もいる。振り返りは自己の学びを調整するために行っていることを生徒と共有し、それにつながる振り返りになっているかを生徒に考えさせることも重要である。
- ・「まとめ」を「学習内容の整理」、「振り返り」を「自分の学び方の整理」等と分別し、取り組む方法も考えられる。